

8月例会－シンポジウム兼サロン夏合宿2報告

8月3日と10日に行われた「ワールドカップ総括シンポジウム」は、告知方法・期間に多くの課題を残したものの、内容的には非常に密度の濃い、充実したものとなりました。演者（会員）の長岡茂さん、宮城島清也さん、村林裕さん、賀川浩さん、橋本潤子さん、宇都宮徹壺さん、及びゲストとして話をして下さったスーザン木下さん、ありがとうございます。また、事務局の加納樹里さん、津田綾女さん、当日手伝ってくださった多くの皆様、ありがとうございます。

次は報告書作成です。今もテープ起こしや校正などで、いろいろな方が作業しています。できるだけ多くの方がこのプロジェクトに関わり、よい成果を残して次へつなげられることを願っております。

内容の詳細については後日発行される報告書に掲載するとして、ここでは当日の様子を簡単に振り返ってみます。

<ワールドカップ総括シンポジウム報告>

【神戸会場】8月10日（土）13：30～17：30 於神戸ファッション美術館 5F・オルビスホール

「"観戦と交流の物語"を中心に」というサブタイトルで行われた神戸会場は、ヴィッセル神戸のホームゲームと日程が重なったためか、参加者は40名弱とちょっと少なめ。しかしながら内容は、これまた非常に興味深いものであった。

ディスカッションの時間が短かったが、シンポジウム参加者のほとんどが2次会に参加し、そこで濃いディスカッションを楽しんだ。ここでも酔っ払う前に、自己紹介を兼ねて「ワールドカップの一番の思い出」を出し合ったところ、東京とはまた違った話がたくさん出てきて非常に面白かった（詳細略）。もう1軒行ったのは言うまでもない。

各演者のプレゼン概要は以下のとおり。

★賀川浩氏

現役最年長ジャーナリストとしてワールドカップを8回現地で取材されている豊富な経験から、主に以下のような話をされた。

- 1) 日韓共催について－日本と韓国の温度差
- 2) サッカー史における2002年大会について－ロナウドの復活とブラジルの優勝から読み取れるもの
- 3) その他－「決勝トーナメント」はない！

★スー（スーザン）木下氏

英国人でありながら「今までサッカーにあまり興味を持っていなかった」スー木下氏は、駐日英国大使館

広報部長として、日本にやってくる英国人（イングランドだけではない）サポーターやメディアの受け入れを通して感じたこと、英国へ帰国した際に感じたことなどを中心に話をされた。

1) 英国では、2002年韓日大会が大会前どう伝えられ、大会を通してどう変わっていったのか

(1) サッカー文化の浅い国で開催するのはどうか

→ サッカーの楽しさを日韓の人と共有できる！

(2) 遠い・高い

→ 確かにそうだったが、行った人は満足した

(3) TV観戦にしても、時差の関係で早朝や昼間の観戦になるのは困ったものだ

→ 普段サッカーを観戦しない人が、職場・学校や広場でTV観戦できた

→ 英国内で、見知らぬ人同士が交流するきっかけになった

大規模なサッカー大会が運営できるのか

→ 非常にスムーズな運営。すばらしい

2) 日本メディアによるフリーガン報道について

3) 日英両国の交流を今後どう続けていくか

★橋本潤子氏

サポータープロジェクト 2002 のとりまとめ役として、また、国内 10 会場すべて回った経験から、主に以下のような話をされた。

1) SP2002の概要と成果

2) SP2002の参加者（日本の市民レポーター）の経験からわかること

3) 国内 10 会場を回って感じたこと

★宇都宮徹老氏

「メディアが伝えた 2002 年大会—あるいは、インターネットが伝えた 2002 年大会」として、メディアは何を伝え、何を伝えなかったのかについて"観戦と交流の物語"を題材として検証された。

1) 「共催国・韓国を応援しましょう！」をめぐって

日本人の本音・サッカーファンの本音

ネット上で漂う「嫌韓ムード」とメディアへの不信が生んだ行動

2) インターネットに潜む危険性

3) 今大会でメディアが教訓とすべきこと

「詳細は後日発行される"ワールドカップ総括シンポジウム報告書"参照—本HPでも順次アップしていきます」